

近接工事事務防止計画書 記載

# 近接工事事務防止計画書

工事事務名 ○○本線○○駅・○○駅間○○k○○m付近 ○○工事事務

発注者 ○○○○株式会社

施工会社 ○○○○建設株式会社

## 目 次

	頁
1 工事概況等	○
2 施工体制	○
3 安全衛生管理体制	○
4 緊急連絡体制	○
5 工事現場全般における列車防護設備	○
6 列車異動及び列車運行状況の確認	○
7 施工打合せ	○
8 列車見張体制	○
9 重機械使用時の事故防止	○
10 地下埋設物に関する事故防止	○
11 異常時等の対応	○
別紙 事故防止対策一覧図	

※No1～No8, No11については必ず記載して下さい。

※No9については、工事用重機械を使用しない場合は記載する必要はありません。

※No10については、施工箇所に地下埋設物等がない場合(影響がない場合)は、記載する必要はありません。

※その他、施工に際して事故防止上の対策等がございましたら項目を追加して記載して下さい。

## 1. 工事概況等

1) 施工場所 ○○○本線 ○○駅～△△駅間 ○○○k○○○m ～ ○○○k○○○m付近  
線路( 左 ・ 右 )

2) 工期 20○○年○○月○○日 ～ 20○○年○○月○○日

### 3) 発注者及び責任者

発注箇所名 : ○○○○○株式会社  
所属・職・氏名 : 土木課 ○○○○  
連絡先電話番号 : ○○○-○○○-○○○

### 4) 施工会社

会社名 : ○○○○建設  
所属・氏名 : 建設課 ○○○○  
連絡先電話番号 : ○○○-○○○-○○○  
緊急連絡先電話番号 : ○○○-○○○-○○○

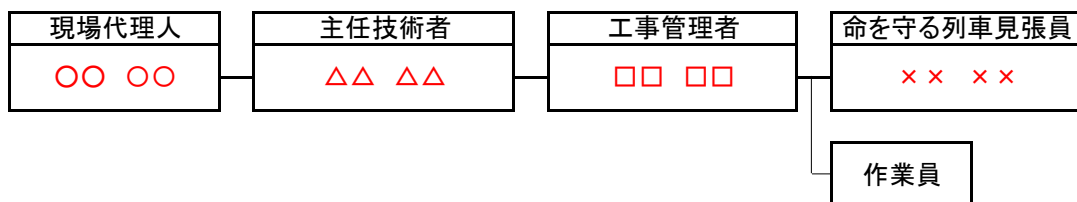
本工事は、……

工事概況を簡潔に記載して下さい。

なお、線路内への立入りは、横断を含めて一切行いません。

この一文は最後に必ず記載して下さい。

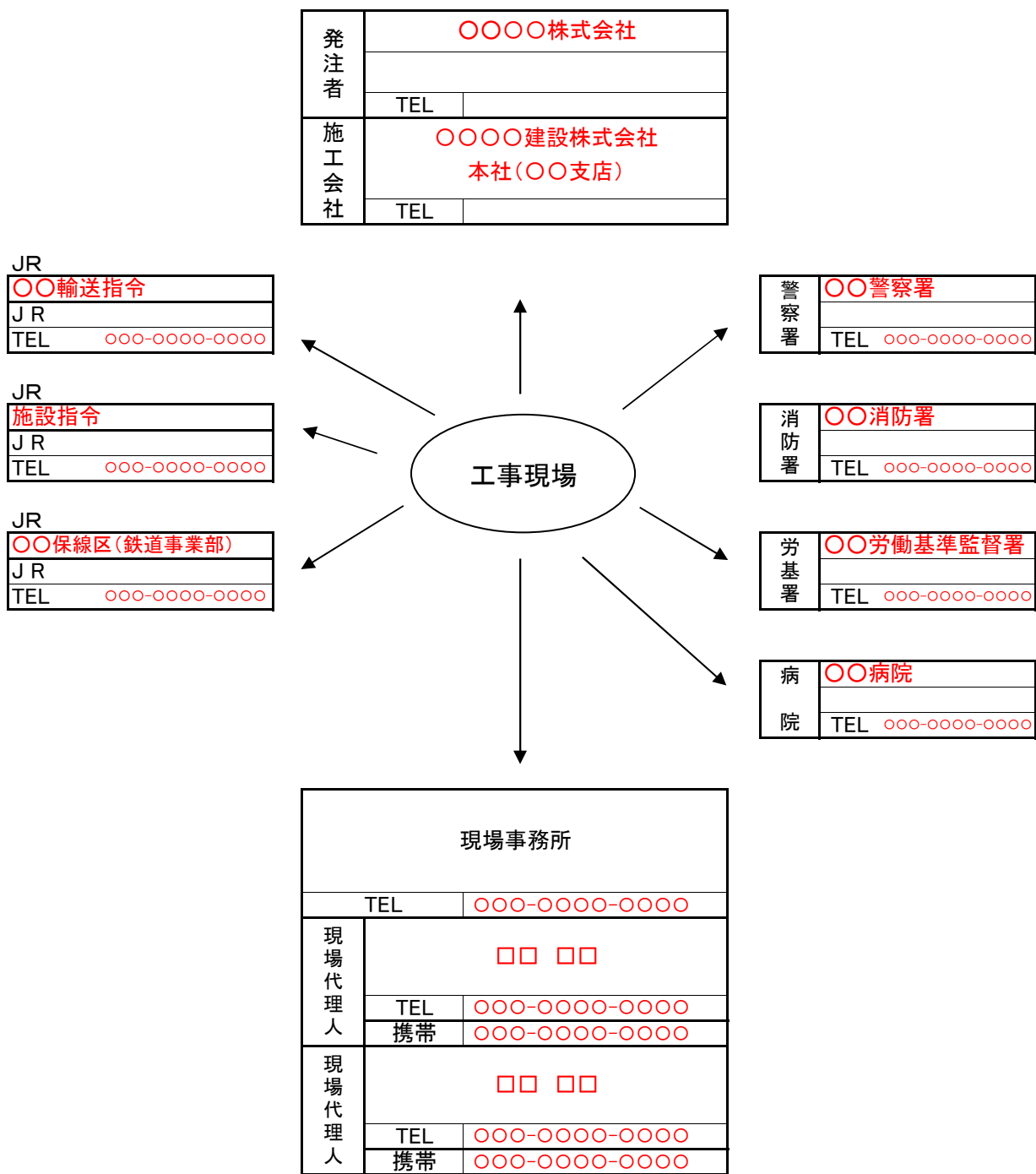
## 2. 施工体制



## 3. 安全衛生管理体制



#### 4. 緊急連絡体制



## 5. 工事現場全般における列車防護設置

列車防護設備より線路側での施工は一切致しません。

## 6. 列車異動及び列車運行状況の確認

- 1) 見張りダイヤ及び列車異動周知表を「ダイヤ取得Webシステム」により取得します。  
システムで取得後、現場へ持参するダイヤの実施日時、出力日、印字状態の良否等を確認します。
- 2) 列車の運行状況の確認は、JRと事前に打合せた方法により作業着手前に現地で行います。

## 7. 施工打合せ

- 1) 工事管理者は施工打合せWebシステムに作業情報を入力し、監督員等と打合わせを行います。
- 2) 列車接近警報装置の使用の有無について、施工打合せWebシステムで該当する項目を選択し不使用の場合は理由を記載します。
- 3) 打合せ内容に変更(追加、中止等も含む)が生じた場合は、当該作業の着手前に施工打合せWebに変更内容を入力し、監督員等と打合せした後、施工を行います。無断作業は行いません。

## 8. 列車見張り体制

- ・列車見張り方式 : ○○○○ 方式
- ・列車見通し距離 : ○○ m
- ・命を守る列車見張員の配置箇所: ○○○本線 ○○駅～△△駅間 ○○○k○○○m ~ ○○○k○○○m付近  
線路(左・右)
- ・命を守る列車見張員の人数 : ○○ 名

作業責任者は、覚書に届けている列車見張員が、指定した位置につくまでは、作業を開始しません。  
なお、列車接近予告合図・列車進来合図は、ハンドマイクか呼笛により行います。  
また、列車接近時及び通過時には、作業を中断し列車注視を厳守致します。  
工事管理者、命を守る列車見張員の携行品は「営業線工事保安関係標準仕様書(在来線)九州旅客鉄道(株)P65」のとおりとします。

命を守る列車見張員の配置箇所及び列車見通し距離の詳細は、別紙「事故防止対策一覧図」に記載します。

## 9. 重機械使用時の事故防止

- 1) 電力設備(キ電線・信号高圧配電線等)からは、安全接近限界の2.0mの離隔を確保します。
- 2) 重機械使用時は、命を守る列車見張員及び重機械指揮者を配置した後で施工します。
- 3) 列車接近時は、作業を中断し列車を注視します。
- 4) クレーン等使用時は、転倒防止等のためにアウトリガ一下に敷鉄板を行います。  
また、列車防護設備より高い重機械は線路近接箇所では使用致しません。
- 5) 重機械の旋回は、線路反対方向に行います。

記載の注意事項はあくまでも一例です。工事の施工状況等に応じて、事故防止上の注意事項等を記載して下さい。

## 10. 地下埋設物に関する事故防止

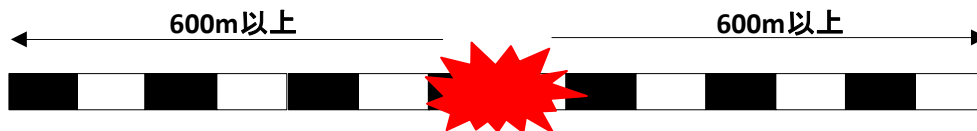
- 1) 地下埋設物は、各関係箇所に立ち会いを求めて、指示があった箇所及び不明な箇所は人力による試掘を行い、埋設物の現物を確認します。
- 2) 埋設物表示板等を設置し、埋設箇所を全員に分かるようにした後で施工を行います。

記載の注意事項はあくまでも一例です。工事の施工状況等

## 11. 異常時等の対応

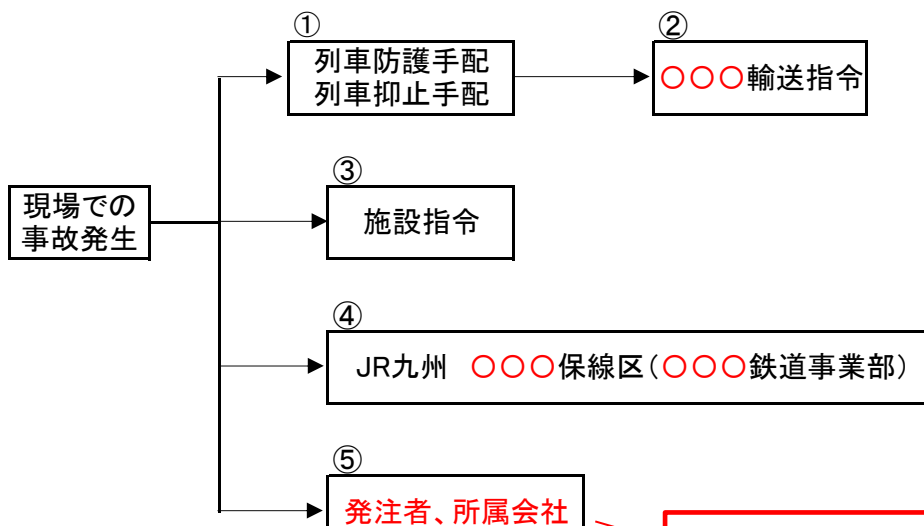
- 1) 列車の遅延が発生したら、作業を中断し〇〇〇輸送指令に運行状況を確認します。
- 2) 事故の発生または発見した場合は、直ちに列車防護の手配を行い、速やかに報告致します  
防護手配並びに報告は、以下のとおりで行います。

### ① 防護



- ※1 列車の来る方向をダイヤで確認し、列車の進来方向に信号煙管を振りながら現場から600m以上施工基面を走った後、大きく円を描くように緩やかに回す。
- ※2 列車が停止したら、列車の運転士に停止させた理由を報告する。
- ※3 付近に、踏切支障報知装置が設置されている場合は、その非常ボタンを押す。

### ② 報告



※ 番号は優先度の順番

発注者、所属会社を記入して下さい。

施工会社、工事管理者の氏名を記

### ③ 報告の標準用語

順序	項目	所属)
1	どこのだれ(所属、氏名)	××建設(所属)の〇〇(氏名)です
2	いつ(発生日時)	×日、〇時〇分に
3	どこで(場所)	××～××駅間、〇〇k〇〇〇m付近の××工事です
4	なにが(概況)	××が
5	どうして	××して
6	どうなった	××した
7	どうした(処置等の内容)	列車は××した。
8	どうする(指示を受ける)	これからどうしたらよいか指示願います。